

郎 一 忠 松 小 兼輯編  
 市 田 上 縣 野 長 人行發  
 學 門 專 絲 蠶 田 所行發  
 校 會 町 鳳 市 田 上 縣 野 長  
 所 刷 印 澤 中 所刷印

## 製絲原料繭の變遷

本年二月一日を以て愈々製絲原料繭の第三者による強制検定が實施された。此れによつて繭の取引も公正なものとなり現下に於ける蠶絲業の主要問題の一つが形式上からは解決されたことになる。纖維原料中生絲の原料である繭程性質の異なるものは他には見當らないであらう。此れは製絲工業の特異性にもよるであらうが、斯様に千差萬別の性質を持つてゐるものを僅か數等級に等級付けを行つた當局の苦心の程も此れを實施する迄の準備期間の如何に永かつたかを見ても充分に察せられる。其の努力に對しては滿腔の敬意を表さなければならぬ。現在の製絲工業の如く機械力に多くを期待し得ない工業に於ては原料の性質が作業の結果と密接なる關係のあることは當然である。即ち此の性質は製絲工業の發達と密不離の關係があり此の改良進歩によつて機械の改良にも飛躍が約束されるのである。

製絲工業の機械化の最大目標である彼の自動繅絲機械の如きも古くから歐洲及本邦に於て苦心研究が多數の人々によつて行はれてゐるが未だ完全なる實用性のあるものが發明されないのは前述の如く製絲作業の特異性にもよるであらうが此の原料繭の性質が不適當であることも有力なる一つの原因であるときへ云はれてゐる。斯様に製絲工業にとつて原料繭は重要な役割をなしてゐるが然らば此のものは過去に於て如何なる經路を辿つて發達して來たかと云ふと此れは誠に目醒しいものがある。此の間に於ける官民一致

[illegible]

元	100	9.66	11.00	絛條斑檢査施
100	100	9.66	11.00	行
100	100	9.66	11.00	多條絛絛機出
100	100	9.66	11.00	現
100	100	9.66	11.00	蘭檢定施行
100	100	9.66	11.00	昭和九年蘭價
100	100	9.66	11.00	最下落
100	100	9.66	11.00	掛目六、四

備考 數字は全國平均を示した。就業  
 時間は以前は特別の規定も見當らな  
 かつたので長野縣のものを示した。

此の表を見ると明治以降に於ける原料  
 蘭の品質や製絛工場に於ける作業狀態や  
 技術の程度等が明かに窺はれる。此處で  
 は主題が原料であるから原料のみに就い  
 て見ると其の進歩改良の跡が良く現はれ  
 然かも其の過程が實に目醒しいことがわ  
 かる。先づ生絛量に於ては過去六十年の  
 間に一・五倍となり、能率に於ては實に  
 七・五倍の激増を示してゐる。前者の割  
 合が比較的少ないのは蘭形の相違が其の  
 一因をなしてゐることは云ふ迄もない。  
 即ち明治初年に於て一升粒數は二五〇〇  
 三〇〇粒もあつたものが現在では一三〇〇  
 一六〇〇粒となつてゐる。従つて一粒に  
 對する生絛量は更に増加してゐる譯であ  
 る。

此の表を仔細に吟味して見ると生絛量

運動用具  
化學藥品  
理化器械  
度量衡器  
計量器  
掛圖全般

カルニユー顯微鏡  
山田體育機械店  
森本運動具店  
日本出版社

長野縣代理店

信濃教育品株式會社

サトウ商店

東京本店 電話日本橋(24)六五番  
長野支店 電話二七三四番  
篠ノ井支店 電話一四一番  
上田支店 電話五七三番  
松本支店

は弊店へ

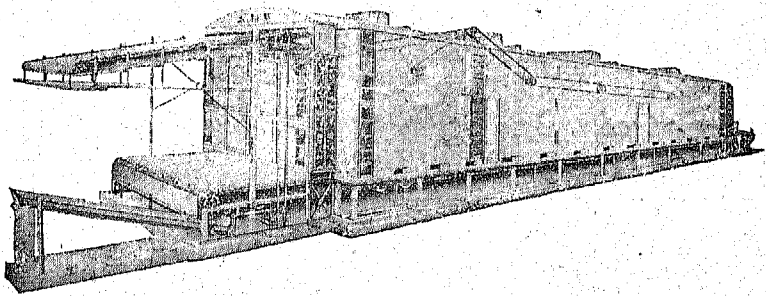


スキーコース、宿泊等は御問ひ合せ次第御回答致します

千曲會指定旅館

信越線上田驛前	上村館	電話上田 344
長野縣菅平高原	菅平ホテル	電話 菅平局1番
長野縣菅平高原	鐵道省 山の家	電話菅平局呼出

現代乾繭機界ノ王座  
大和式自動輸送乾繭機



元 賣 發 作 製  
社 會 株 式  
會 商 光 三 和 大  
地 番 二 目 丁 三 橋 京 區 橋 京 東 京  
番 番 番 番 番 番 番 番  
三 〇 〇 二 五 五 三  
四 七 一 〇 〇 〇  
三 〇 〇 〇 〇 〇 〇

**營 業 課 目**  
 特許大和式自動輸送乾燥機  
 特許大和式自動人絹乾燥機  
 特許帶川三光式乾燥裝置  
 特許やまゝホイロ装置  
 特許サンコー式濾過淨水装置  
 特許サンコー式廢湯吸熱器  
 特許サンコー式高壓ポンプ  
 特許サンコー式高圧ポンプ

と能率との變遷狀態は一致しないであらう。昭和三十四年頃迄は増加率〇・〇二五の異つた曲線になつてゐる。即ち生絲量の昭和五年を境として現在迄の増加は極めて著しく増加率〇・三七<sup>八</sup>/<sub>一〇〇</sub>と云ふ物凄く然かも直線的傾向にて増加してゐる。能率に於ては其の變曲點は大正二十三年頃で此の頃迄の増加は稍凹形の關係をなし増加率は大体〇・〇一<sup>九</sup>/<sub>一〇〇</sub>であるが、此の年を過ぎて現在に至る間の増加率は實に〇・九八<sup>八</sup>/<sub>一〇〇</sub>と云ふ大飛躍をなしてゐる。斯くの如き結果を示したことは其の間に於ける製絲技術の改良發達のあることは勿論であるが前述の様に此の技術の改良の基礎をなすものが原料であつて見れば此の間に於ける原料品質の向上が如何に目醒しきものであつたかが頷かれるのである。

又生絲量と能率の傾向が一致しないのは其の當時に於ける改良目標が多少の差異のあつたであらうことも考へられるが其の外製絲技術の改良、繭取引方法の變遷等も挙げられやう。即ち表を見ると能率の大飛躍をなした頃には養蠶分業製絲が行はれ始め生絲量の飛躍的增加をした頃には繭の檢定が施行されてゐたのであつて此等のことが原料繭の改良に間接的影響をあたへたことも否定することは出来ない。

以上の様な實績から將來に於ける原料繭の動向を考へると生絲量に於て業者の長年の目標である生繭一〇〇貫にて生絲百斤と云ふ繭も出來やうし又一日繰絲量三〇〇匁と云ふ結果も得られるであらう。一此等の數字は何れも全國平均に於て、ことも大して遠い將來でないことが豫想される。加ふるに繭檢定の普及によつて繭價を形成するものは生絲量、繰絲量の多である繭繰織度、小額等も重要な因子であることに目醒めて來れば綜合的に見た繭質も尙更に改良され従つて生産される生絲の品質も向上するであらうことは必然である。

現下非常時局下に於て國產纖維の増産が痛切に叫ばれ又昨年來市場に出現した合成纖維に對抗して永遠なる蠶絲業の發展を期さんには手段は只一つ優良なる生絲を安價に生産するより外はない。然しが原料繭であることを想へば斯業が此の方面の研究改良に期待する所實に大であること云はなればならない。(川口)

御郷里の新住宅が一年餘りかゝつて漸く完成を見るに至つたので愈々轉宅の時機が迫つて來たのである。三十年も住んだ上田を引揚げののだから荷物の移轉が容易の事ではない。早くから整理に心掛けたけれども使用しなれない物から次々に荷物自動車で運ばれたのである。客間の戸戸棚や還歴紀念の壽像などはいつの間にか見えなくなつた。扁額や刀掛けが依然として居た頃は時々訪問する人達には氣が附かなかつた事であらう。其内に駿尾氏の濱名湖の油繪や胡瑗の額面も見えなくなつた。之等は金山町の御宅以來見慣れた物である。其れからは訪れる度に客間が次第々に簡單化して來て何となく座敷が廣くなつた様に感じられたのであつた。

或時ちやうど松岡、笠井兩君が可なり好い機嫌に酔つて居た晩であつた。三合も入る九谷焼の大徳利が卓上にまだ立てられてあつた。これは松尾町の頃以來正月毎に見たなじみの物であつて、酒に縁の深かつた故人、舊職員を次々に想ひ出させるものである。菊模様のある薩摩焼の茶碗も其に依然として舊のままである。此等思ひ出多き徳利、茶碗ともやがて訣別しなければならぬ時が來るのである。

暖い風と共に杏が咲き桃櫻が引續いて笑ひ、上田も彌々陽春の氣分になつた頃

初別會が済むと愈々全部の荷物造りが始まつた。卯はつささん(御令弟)、藤江さん(都九夫人)、滿枝さん(野口夫人)達が取出す荷物を次々に學校若手の傭人達が荷造りして離れは座敷も廊下も忽ちに荷物の山である。五月一日大形トラック一臺が早朝勢よく出發した。此日も引續いて荷造である。愈々今晚必要の夜具と食器以外の物は全部荷造りして仕舞つたのである。其の光景は恰も大掃除の様なのであつた。後れ馳せて挨拶に來られた人達は玄關で早々歸らざるを得なかつた之れが即ち忙中また自ら閑ありと謂ふ光景であつて働いて居る人には後からアレキを懸けられる感じがあつたらう。

二日早朝残りの荷造りをした二臺のトラックは荷物を山と積み上げた。テリヤは箱に入れられて勝手道具の間に積み込まれた。急激の變化に驚いたのか悲憤の聲で泣き出したので好物の菓子やつたが食はうともしない。テリヤの悲嘆には苛むる自動車が爆音勇ましく出發したのである。

荷物を全部送り出した後の荒廢は引締められる様な淋しい光景である。部屋と云ふ部屋、軒下も倉も物置も全く空虚の連續であり、邊り一面紙屑や縄片や芥の散亂である。井上、阿形、遠藤三夫人を初めお松さん(澤津夫人)、恒ちゃん(卒業生倉澤)の母さん、愚妻達のエプロン帯と残つた傭人達總動員で内外全部の掃除である。傭人の趾は忍らへ一變した大

日あること必ずしも偶然ではない。  
先生は、土を熱愛せられた、どんな多忙の間でも、小閑を偷んで裏の畑にたち出でて、半裸体のまゝ、炎天下に平然と鋤を大地に打ち込んで居らるゝお姿をよく人は見かける所である。  
又先生は、自然に向つて限り無き憧憬を寄せられた。高山の跋涉、山野の散歩は常に御多忙でありながら、好んでなされた所であり、又生きとし生けるものは動植物の別を問はず、愛情おかに、渺たる生命と雖も嘗て之を疎かに取扱はれたことは無かつた。此の間高僧にも比すべき逸説は澤山あるが今は言はない。たとえば、如斯土と自然を熱愛せられたと言へば即ち足るのである。實に、土と自然に對する愛は先生の宗教であり、哲學であり、又先生の大人格の據つて来る源泉でもあるのである。  
今回の御歸郷は、先生の土と自然に對する愛の大理想を御郷里に於て具現せらるるためであつて、先生の主觀的な立場に樹てば吾等は必ずしも悲しむにあたらないのである。  
然しながら、上田の地に居住せられて三十年、吾等と結ばれて實に三十年、此の三十年の長年月を慈愛の父としてかして來た吾等であつて見れば、吾等の主觀は之を惜まらずして何をか惜しむべきや。お訣れにあつて切々斷き哀別離

針塚先生轉宅

豫て御郷里に居を移されと承つてゐた針塚先生の新宅が愈々完成を見たので先生御一家は三十年住み馴れた上田を去られることとなつた。五月四日午前十時三十五分上田驛を御發ちになつたが流石に先生の御人格と御交際丈に御見送りは驛員の驚愕する程であつた。然し先生には斷えず當地に見えられる筈で其の折々御面接も出来るし、又訓えを受けることが出来るのである。



## 前校長さんの転宅

石倉新十郎

初別曾が濟むと愈々全部の荷物造りが始まつた。卯はつさん(御令弟)、藤江さん(都丸夫人)、滿枝さん(野口夫人)達が取出す荷物を次々に學校若手の傭人達が荷造りして離れる座敷も廊下も忽ちに荷物の山である。五月一日大トラツク一臺が早朝勢よく出發した。此日も引續いて荷造である。愈々今晚必要の夜具と食器以外の物は全部荷造りして仕舞つたのである。其の光景は恰も大掃除の様なのであつた。後れ馳せに挨拶に來られた人達は玄關で早々歸らざるを得なかつた之れが即ち忙中また自ら閑ありと謂ふ光景であり働いて居る人からは後からブレィキを懸けられる感じが又つたらう。

二日早朝残りの荷造りをした二臺のトラツクは荷物を山と積み上げた。テリヤは箱に入られて勝手道具の間に積み込まれた。急激の變化に驚いたのか悲愴の聲で泣き出したので好物の菓子やつたが食はうともしない。テリヤの悲嘆には苛藉なく自動車は爆音勇ましく出發したのである。

荷物を全部送り出した後の荒廢は引締められる様な淋しい光景である。部屋と云ふ部屋、軒下も倉も物置も全く空虚の連續であり、邊り一面紙屑や繩子や芥の散亂である。井上、阿形、遠藤三夫人を初めお松さん(瀧澤夫人)、恒ちゃん(辛業生倉澤)の母さん、愚妻達のエプロン除と残つた傭人達總動員で内外全部の大掃除である。荒廢の址は忽ち一全部の青

日あること必ずしも偶然ではない。  
先生は、土を熱愛せられた、どんな多忙の間でも、小閑を偷んで裏の畑にたち出でて、半裸体のまゝ、炎天下に平然と鋤を大地に打ち込んで居らるゝお姿をよく人は見かける所である。  
又先生は、自然に向つて限り無き憧憬を寄せられた。高山の跋涉、山野の散歩は常に御多忙でありながら、好んでなされた所であり、又生きとし生けるものは動植物の別を問はず、愛情おかに、渺たる生命と雖も嘗て之を疎かに取扱はれたことは無かつた。此の間高僧にも比すべき逸説は澤山あるが今は言はない。たとえば、如斯土と自然を熱愛せられたと言へば即ち足るのである。實に、土と自然に對する愛は先生の宗教であり、哲學であり、又先生の大人格の據つて来る源泉でもあるのである。  
今回の御歸郷は、先生の土と自然に對する愛の大理想を御郷里に於て具現せらるるためであつて、先生の主觀的な立場に樹てば吾等は必ずしも悲しむにあたらないのである。  
然しながら、上田の地に居住せられて三十年、吾等と結ばれて實に三十年、此の三十年の長年月を慈愛の父としてかして來た吾等であつて見れば、吾等の主觀は之を惜まらずして何をか惜しむべきや。お訣れにあつて切々斷き哀別離

上田を圍む大自然も、憂ひを含み聲をのみ、静寂の間に默送を續けて居る。烏帽子よ！太郎より千曲より！靈あらば來りて此の聖君との袂れを泣げ！

袂れ兼ねて、先生方の奥襟又は町の人等數人小諸驛迄見送られた。此所でも亦袂別の愁嘆が演ぜられた。小諸では在町の同窓生數名が驛迄御見送り申し上げた輕井澤からボツ／＼雨となつて車窓を叩いたが、さみどりの中に咲き残る山櫻の薄紅が一層美しく見えて一行を慰めてくれた。高崎の乗り換へはつた二分、然し此所にも同窓が迎へてくれたので會かと便利であつた。新前橋から群馬支會の大勢が乗り込んでくれて賑やかなつた澁川驛に着いたのは二時半頃である。

生憎雨は稍強く降つて來た。驛には村長を始め村民が村旗を先頭に構ひに埋め盡す程に澤山出迎へられた。此所では上田とは全く反對に、此の平和の聖者を迎ふために歡喜するゝが如きおももちが感じられた。

先生のお宅は此の澁川驛から約十五分位<sup>ほど</sup>と思はれた。上田驛から母校への距離よりも稍々近い。澁川、前橋を繋ぐ堂々たる國道で、路面の良い平坦な道路を東すれば忽ち右手に先生の御宅を望み見る事が出来る。又汽車の中からも澁川驛手前約三分の所で利根川向きに新しい板塀と母屋の二階が招呼の間に望し得られる。

針塚先生を御見送りする

針塚先生は豫て御郷里に御建築中の新装が成つたので、陽春の佳日を卜ひ、く上田と訣別せらるゝ時が来た。市井は揚げて先生との離別を惜み、手段を盡して慰留之力めたが、先生の御意志は堅として堅く、遂に曲げることが出来なかつた。

先生はよくこんなことを述懐せられぬ。僕は應ては家に歸つて芋を掘り墓を它と。

今回の御歸郷は、此の年來の御希望も其の儘に移さるゝことになつたわけでも

分、上田驛頭は御見送りの官民で文字通り立難の餘地も無い程であつた。後で驛員の言ふ所によると、應召は別として未曾有の御見送りであつたと言ふ。爪もたないとは此の事を言ふのであらふ。國防婦人會(御奥様は國防婦人會の支部長であられた)と本校學生は構内廣場に整列した。先生は學生に向つて「時勢を知つて學生の本分を盡せ」と例の名調子で簡潔適切な御訓辭があつた。獨り學生のみならず聴くのを許して自ら聆を正さしめ、思はずホロリとさせられた。漸て汽車は上田驛を滑り出す。惜別の言葉が切れた一瞬、さうしる人々



れ、御生家の裏には鬱蒼たる樹木に取り  
圍まれた鎮守の神社がある。  
一行は村旗に導かれて雨中进行し、先  
づ鎮守の御社に参拝した。先生の悪童時  
代(一)の悪戯の指しどころかと思ふと一木  
一石と雖も大變なつかしき心地がした。  
それから新居の門をくぐった。村民は玄  
關前に整列して先生の御挨拶を受けた。  
先生は莊重な言葉を以て、感謝の意と將  
來の交誼を乞はれ「且つ私の歸つて來て  
は亡父の訓へに従つて墓を守るためだ  
ある」と陳べられた。  
先生の御歸郷は單に土と自然を愛する  
の結果ばかりでは無かつた。大道の本  
を全ふせらるゝためであつた。此の情  
景に浸つて、此のお言葉を聞いた利那、  
人生の最終の目的が奈邊にあるかの啓示  
を得て自ら頭の下がるものがあつた。  
村民は寸息して歸つていつた。残つた  
人は、お宅の皆様と、岡部、大木(群馬  
支部長代理)、茅野、千吉良の諸氏と母  
校からの依田庶務課長と私とだけであ  
る。言はゞ水入らずである。都丸さんの御案  
内で、新木の香り爽快な室内を隅々無  
く見する。  
此の建築の設計は、都丸氏が中心とな  
つて、先生舊知の設計技師と棟梁との合  
作になつたものである。従つて萬事が親  
切に出来て居る。  
營業本位の夫れ  
とは大に趣を異  
にしたものがある。  
都丸さんの  
御説明によると  
屋内の優雅寛容  
に重點を置いて  
徒らに外觀の美  
を競はなかつた  
と云ふ、洵に其  
の通りである。  
そう申しては失  
禮であるが、内  
容の典雅の割に  
外觀は多少落ち  
るやうである。  
應接間は十疊  
敷もあるが、洋  
風で華美では  
ないが清楚とし  
て落ちついて居  
る。セット等に  
も苦心の跡が見  
えて奥床しい。  
應接間の前に温  
室を取りつくる  
つたあたり、如  
何にも氣のきい  
先生御夫妻の御  
居間は應接間に

# 新農薬

國策の線に沿ひて、好評噴々、  
刮目すべき新農薬の偉力を試みよ!!

◇最新殺クポイド (コロイド硫酸銅を主剤) 一割入  
◇新殺クコクサイド (ルビニ酸アガベニ縮合) 一割入  
◇倍加コルヒチン (新製品の色を倍加し) 一割入  
◇牛長ホヘテロキシシン (果樹の無核果樹木の) 一割入  
◇其他サイド一號を初め  
新農薬多数!

三共農薬株式会社  
東京日本橋

事ではなかつたらう。一通り説明を承つ  
て後、下の應接へ始めてのお客さんと  
つて茶を戴き漫談に小半時を費した。其  
の時、之では随分おもしろいしやうな  
と云つては具体的に單的に切り出すこと  
が出来なかつた。  
私共の第一に氣に入つた事は、位置が  
非常に景勝の地であることである。利根  
の清流を眼下に見下ろし、赤城の連山を  
前に見て、浅間、秩名の連峰を背に負ふ  
山紫水明の平地である。第二に、家が如  
何にも温かそうである。第三に、清静であ  
る事である。第三に、滋川縣から非常に  
近い。附近に温泉もある。思つたよりか  
（失禮の言ひ草であるが）便利である事  
である。  
御近所には澤山御親戚も御親戚もある  
し、旁々非常に安心した心地でお宅を辭去  
することが出来た。こんなお宅に二、三  
日御厄介になつても悪くないな!と思つ  
て見た。こう考へると、お客さんも却々  
あるだうなとも、種々と思つて歸路につ  
いた。先生の土上には於ける御住所は、千  
曲會館であるから大抵は學校で御勤勞が  
わかる筈である。時には長野に、時には  
別所に出で、時には長野に、時には  
も學校へ御照會下さい。

## 本日蠶絲文學獻集

(刊新最) 編郎太金川石

錢三十三料送 錢十八圓六價定 • 頁〇〇〇一組横號六・入函裝洋判六四

本書は一九三七年から一九三九年に至る我が國蠶絲學關係の諸々の文獻を網羅したもので「桑」「蠶」「繭」「繭絲」「蠶絲化學」の五部に分れて、無慮二萬に及ぶ文獻の著者名、研究題目、發表年、發表號等を記載し、懇切な索引と相俟つて一目瞭然と編纂したものである。過去四世紀にわたる我が國蠶絲學の全貌を鳥瞰するに足ると共に、斯界の研究に無限の光明を點する唯一の資料として特筆すべき勞作である。著者による先づの文獻目録は絶版既に久しく、斯界の翹望たる完成に心血を注がれたもので、その努力と功は本書の上に高く評價されずには出来ないであらう。切に大方の御清鑑を待つ。

埼玉縣蠶絲試驗場長 野中幸兵衛著  
養蠶  
實用蠶絲全書(五)  
價一・二〇 送料一五  
養蠶の經營、蠶種、桑蠶の飼育、夏秋蠶の飼育、産繭の規格統一、上簇、蠶病豫防、蠶室蠶具の消毒等に亘り詳細解説された斯界の名版である。

岡部康之著  
桑樹栽培  
實用蠶絲全書(六)  
價一・二〇 送料一五  
品種、採苗、栽植、仕立方、收穫、施肥、管理、障害、經營、遺利等に亘つて養蠶と聯關し桑樹の合理的栽培につき著者の長い研究体験を傾注して詳述された懇切無比の好著である。

明石弘 著	近蠶絲業發達史	定價五・五〇 送料三三〇
遠藤保太郎 著	桑樹實驗法	定價一・二五 送料一四〇
加納 銳 著	蠶種製造實務要覽	定價一・二五 送料一四〇
高瀬 軍治 著	箱飼養蠶給桑育蠶法	定價一・五〇 送料一六〇
福田 惠治 著	實用簡易活桑育蠶法	定價一・五〇 送料一四〇
金崎 眞英 著	上簇改良論と實際	定價一・五〇 送料一四〇
佐藤 利一 著	蠶の敗血症並に一般軟化病の性質及び豫防法	定價三・八〇 送料三三〇
荻原 清治 著	煮繭論	定價三・〇〇 送料二二〇

堂文明 一町錦區田神市京東  
〇九一三二一京東替振  
(呈進第次申入 - 録目書圖版出)





野に新太郎教授の中北支、滿洲に於ける蠶絲業及纖維工業視察は已報決定通り四月十二日出發、十八日上海に上陸以來旅中無事元氣旺盛にて知見を收めつゝある由、今月廿日歸校の御豫定であるが土産話を豊富に無事御歸校を待つ次第である。

松崎  
寶正  
戸谷澄  
趙駿  
猪坂哲郎、宮

顧問  
針塚長太郎  
阿形輝司、高木千

佐藤保太郎、原田親雄

和仙太郎、目崎三郎、依田

啓藏、和田主計

矢野	進	勲	五	島小太郎	勲	五	
安田	辰巳	勲	七	金子新一郎	勲	七	
橋本	和夫	勲	六	乾	正	勲	三
土屋		勲	五				

昭和十五年度會費金四圓也

淺川	茂樹	勲	三	西井	茂雄	勲	三
土屋		勲	五				

中華民國（出張ヲ命ス）（四月九日）  
羽鳥不二夫  
任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官七  
等十一級俸下賜（四月十六日）  
上田蠶絲專門學校長 井上 柳橋  
滿洲國（出張ヲ命ス）（四月二十七日）

副手ヲ命ス 神林 至  
絹紡織科勤務ヲ命ス(四月九日)  
顧ニ依リ副手ヲ免ス(四月十六日) 副手 武井仙太郎  
副手ヲ命ス 小泉 恭平  
養蠶科勤務ヲ命ス(四月二十日)



橋本君と一緒に教會に行つた或日、恰度祈禱が始つた時の事である。禮拜堂の後の扉の方になどならぬ人聲が、キリストはゐるが、キリストは俺達の友達を取つて仕舞つた。會堂の空氣が急遽にザラめいて皆立止つた。私が吃驚して後の扉の方を振返つた突端に酒氣を帶びた鈴木君が扉を排して會堂内に這入つて來様としてゐる君の眼にカ合つて仕舞つた。この無鐵鋼な行爲に少なからず私は立腹した。此等常なる閑入者と私共の會衆は之を異とを見做べて物も言はずただ茫然とゐたであろう。何處かの詩人は斯處言つて嘆いた。

雜踏の中におて  
語るべき友を持  
たない。

大海の中におて  
一滴の飲むべき  
水を持たない。

君のその純眞な心からすれば正にこの詩の意味が痛切に味はれたことと思ふ。干言を費しても今ぞ君益になんし。語るべき友の渺ない世の中に君を失つた事は實に悲愴である。併し日々相見 念々不忘、心々相通、何距存亡、である。

四月三日  
神武天皇祭の日  
小湊 潔

(景全場工都京社本社會式株藥製業工一第)



五月五日現在

[illegible]

新任御挨拶

語學教室  
羽島

歸校御挨拶

先是不取敢御挨拶

轉任御挨拶

和十五年四月  
新潟縣相川中學校

轉任御挨拶

林産化學研究會  
塚田

就任御挨拶

養  
小蠶  
川科



謹啓 時下新緑之候愈々御清祥に被  
 候段奉賀上候、陳者小生儀態本縣在勤  
 中は公私格別、御懇情を辱し有難  
 厚く御礼申上候。今回勸勤和歌山縣  
 検定所長兼經濟部農務課勤務を被命  
 に就ては今後共不相變の御指導御鞭  
 を賜り度奉存願、先は乍略儀寸緒を  
 以て御挨拶申上度、如斯御座候、頓首

昭和十五年五月 日

和歌山市加納南局  
 三好彌市